

## <自然雪の顕微鏡観察: 広島県安芸高田市高宮町野部において(令和2年1月31日)>

天気予報では雪マークが出ていませんでしたが、今朝7時ごろ外を見るとチラチラ雪が降っていました。すぐにかき氷と塩を混ぜて低温を作り、その上に黒のフェルトをのせて雪をとらえ保存しました。顕微鏡観察の照明は昨年開発したマルチカラー照明を使用しました。結晶は殆どが樹枝状結晶であり、これに細かい角柱結晶が付着しています。小さな角板も見つかりました。この雪の生成は雪雲によるものでなく、日の出とともに地上から登る水蒸気が、上空の寒気の中で結晶化したと考えられます。

